

平成 29 年度（第 19 回）東海小学生バレーボール新人大会

競 技 上 の 確 認

競技委員長

1 競技形式について

(1) 第 1 日目、予選をリーグ戦方式とする。

※各組内で勝敗が同じになった場合は、①セット率、②ポイント率、③直接対決での勝ち負け、④抽選・・・の順で順位を決定する。

(2) 第 2 日目、順位決定戦をトーナメント方式とする。

2 チーム編成について

(1) チーム構成表・ベンチスタッフ変更届は、受付時に提出し、変更は代表者会議終了までに競技委員長に提出する。

(2) 提出されたチーム構成表・ベンチスタッフ変更届は、全試合に適用し、途中の変更は認めない。

(3) 試合中、競技場に入場できるのは、当日エントリーされた者のみとする。

3 使用球について

各コートごとの使用球は次のようにする。

男子コート	1・2・3 試合目	ミカサボール	4・5・6 試合目	モルテンボール
女子コート	1・2・3 試合目	モルテンボール	4・5・6 試合目	ミカサボール

4 コートについて

本館競技場奥側から順に A・B・C コート、別館競技場を D コートとする。

5 競技服装について

(1) 選手のユニホーム（ジャージ・パンツ・ソックス）は、形状、色及びデザインがチームで統一されていること。

(2) ユニホームからはみ出すスパッツ・アンダーウェア等の着用は禁止する。

※気象条件によっては、統一されたアンダーウェアの着用を可とする。ただし、ハイネックなど襟元の大きくはみ出すものは不可とする。

(3) ベンチスタッフは、統一された服装でベンチ入りすること。

(4) ラインジャッジを行うとき、上着の着用を許可する。

6 試合進行について

(1) 試合順序はプログラムに掲載された通りに行う。

(2) 第 1 試合は開会式終了後、準備が整い次第プロトコールに入る。

(3) 第 2 試合目以降は、前の試合が終了（記録員が完了）してから概ね 10 分後にプロトコールに入る。

(4) 同一チームの試合が連続する場合は、前の試合が終了してから最大 15 分後にプロトコールに入れる。

(5) 前の試合のチームは、キャプテンが記録用紙へのサインを済ませた後、速やかにベンチを空けること。

(6) 次の試合のチームは、コート担当の指示が出てからベンチに入ること。

(7) 試合間の練習は、隣接コートの試合に支障をきたさない範囲で認める。ただし、ネットを使用しての練習は禁止とする。

(8) 試合の進行状況により、試合順やコートを変更する場合があるので注意すること。

(9) 監督は、試合終了後、主審・副審とフェアプレーの精神で握手を交わす。

7 試合中について

(1) 監督、コーチ、マネージャーは子供の健全育成を目指す指導者としての自覚をもち、不適切な行為はもちろん、誤解を招くような行為も厳に慎むこと。

(2) 監督は、ボールデット間に、立ち上がってコート内の選手に必要な指示を与えることができる。このことは、監督がみだりに立ち上がる行為を容認するものではない。また、ベンチスタッフが、自然発生的に喜びの表現として偶発的に立ち上がる行為は許容範囲であるが、監督以外が、毎回のように入り数歩前に出たりする行為は認められない。さらに、監督が、選手とハイタッチをしたり飛び跳ねたりする行為及び相手を威嚇する行為も認められない。

- (3) うちわ等については、セット間及びタイムアウト中のクールダウンに使用する場合のみベンチへの持ち込みを認める。
 - (4) マスコットのな物（ぬいぐるみ・千羽鶴等）やメガホンの持ち込みは禁止する。
 - (5) 水分を補給する場合は、ベンチ前で行い水筒やペットボトルを直接床に置かないこと。
 - (6) 携帯電話やトランシーバー等の電子機器の使用は禁止する。
- 8 応援のマナーについて
- (1) 応援マナーの厳守は、監督の責任において徹底させること。
 - (2) 横断幕は各試合の該当チームのみが1枚掲出し、試合後直ちに撤去すること。掲出の際には、観覧者の視界を遮るようなことがないように、手摺の下部に必ずひもを使用して掲出すること。（ガムテープ等は、絶対に使用しない）
 - (3) のぼりも横断幕に準じ、観覧席の最後部にひもを使用して立てること。
 - (4) 鳴り物（太鼓・ラッパなど大音量を発するもの）の使用は禁止する。
 - (5) いかなる場合であっても、施設及び付帯の設備を叩きながらの応援は禁止する。
 - (6) フラッシュ・赤外線レーザー等の使用は禁止する。
- 9 その他
- (1) 貴重品は、チームで責任をもって管理すること。
 - (2) 地震等非常時に備え、各人で非常口等避難経路を確認しておくこと。
 - (3) ごみはチームで持ち帰ること。
 - (4) 観客席の向い合う前1列は、各試合の該当チーム応援席として、空席としておくこと。
 - (5) 体育館の使用規定を厳守すること。

審判上の確認

審判委員長

- 1 競技規則について
 - (1) 本大会は、平成29年度公益財団法人日本バレーボール協会の定める6人制競技規則による。また、別に定める小学生バレーボール競技規則を採用する。
 - (2) タイムアウトの要求は、ハンドシグナルとともに言葉を用いて明確に示すこととする。
 - (3) 選手交代は、交代選手がコートに入る準備をして選手交代ゾーンに入ることにより要求したことになる。また、複数の交代を同時に要求する場合は、すべての交代選手が同時に選手交代ゾーンに入らなければならない。
 - (4) テクニカルタイムアウトは、選手の健康と安全に十分配慮し、選手が速やかに給水できるようにする。
- 2 ボールシステムについて
 - (1) 本大会は、ワンボール・システムで行う。
 - (2) ラリー終了後は、速やかにサーバーへボールを渡すことを心がけるようにする。
 - (3) 相手チームにボールを送る際は、ネットの下を通し、選手の安全に配慮すること。
- 3 コートワイピングについて
 - (1) モップは置かず、各チームで行う。
 - (2) 原則として、コート内の選手が自ら用意したタオルで速やかに行う。
 - (3) 状況により、審判員の指示で、ラリー終了後、交代選手（3名以内）又はチームスタッフがコートに入り行うことを認める。
 - (4) 公式練習終了後、タイムアウト、テクニカルタイムアウト及びセット間は、選手又はベンチスタッフがモップを使用してコート内とサービス・ゾーンのワイピングを行う。
- 4 暴力・暴言について
ベンチスタッフ及び選手によるコート内外における暴力・暴言については、厳に慎むこと。万一当該行為があった場合には、ルールに則り制裁をする。